

2023 年度 第 10 回 3 月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2024 年 3 月 13 日（水）
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数 9 名
返信総数 5 名
出席総数 4 名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	大森玲子
	委員	石松英昭
	委員	和久井要子
	委員	佐子達仁
	委員	若井明香
	委員	鈴木正人

4. 議 題
（1）「防災・減災を学ぶ 2024」について
放送日 2 月 24 日（土）12：10～12：40

（2）その他

5. 議事内容
（1）「防災・減災を学ぶ 2024」について
番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明

2011年の東日本大震災、2019年の台風19号など、災害が少ないといわれる栃木県内でも、多くの被害が発生し、いまだ復旧・復興は完全ではありません。栃木放送は、災害の際に最も力を発揮できる地元のラジオ局として防災機関の役割を担うとともに、防災に対する県民の知識や関心を常にアップデートするために、毎年年度末に報道特別番組「防災・減災を学ぶ」を制作・放送しています。災害時の取り組みなどを幅広く県民の皆さんに伝えることで、被害を最小限度にとどめて速やかな復旧をはかるためにはどうすればよいか、防災意識を高める機会としているところです。

【内容】

第1回「能登半島地震について」

今年1月1日に発生した能登半島地震の被害の現状等を取材し、栃木県にいる私たちができる支援、取組を考えます。

（取材先：MRO 北陸放送 KNB 北日本放送）

第2回「被害支援について」

第3回「災害を伝える取組について」

今回の番組審議会議題は第1回の放送についてのみの審議。

各委員からは

○地域によって発災時の対処方法は異なると考えますが、改めて避難場所やルート、連絡方法を改めて確認する事が必要であると感じるとともに、自治体や企業などでは発災時の情報発信方法や安否確認方法など、明日は我が身と思い準備しておくことが重要であると思った。放送の中でもありましたが、水平ではなく垂直に非難する事も重要。これを自分自身の地域で考えた時に、公表されている避難場所では距離もあり、仮に水害となった場合逃げ切れるか不安な気持ちはあった。近場の高い施設は民間企業のものであることから、一時避難場所などは自治体と民間が連携したうえで考える事も災害大国日本と言われる現在では必要なのかなと感じた。また、被災地への支援にあたっては、個人と企業でできることがある。個人では、ボランティア活動や寄付などがメインになると思いますが、企業としては、これに加え避難所の提供や物資支援等、其々の企業が少しずつでも支援等を行うことで大きな力につながるものと考えている。

○現場の状況を知らせ、現場の声を吸い上げ放送することにより、発災後の様子をリアルに把握することができた。「防災・減災を学ぶ」というタイトルを通して、今回の番組からリスナーが何を学べたか、改めて検討する必要もあるように思う。その点、番組の要所所で、アナウンサーが押さえて、番組タイトルに戻る時間を設定しており、番組展開として分かりやすかったと感じた。

○能登半島地震の状況を踏まえ、防災・減災を進めるための課題や今後の取り組みを提起する素晴らしい番組と思った。また、番組を通して、災害発生時の防災機関として、栃木放送が、地元ラジオ局としての重要な役割を担っている、という自覚が十分に感じとれた。能登半島地震では、東日本大震災の教訓を生かし、日頃から備蓄や避難訓練などが行われていたが、津波警報の発令で沿岸部ではない人も避難し、道路が大渋滞となったことや、避難した先の山で土砂崩れが起きたことなど、住んでいる地域や災害の状況に応じた避難について、ケースバイケースの対応が必要であることが大変参考になった。災害に備え、日頃から横のつながりを密にしておくことは必要であるが、県内の住宅地など、高齢化が進んでおり、改めてコミュニティ構築の重要性を感じた。なお、富山県氷見市の被災状況も放送し、いろいろと参考となったが、シリーズ3回の放送予定の内の第1回目であり、能登半島地震では、特に甚大な被害を受けた石川県の珠洲市、輪島市、穴水町等の状況を放送すべきと感じた。比較的被害の少なかった富山県の状況に初回で半分の時間を割いたのは違和感があった。

○災害は、いつ、どこで起きるかわからないことは充分理解していますが、自分の住まいであったり、勤務地あたりは意識しても、出張先、旅行先という意識まではなかなか持てませんでした。そのような問いかけがあったことは、非常に大切であると、こうした番組の価値を改めて感じたところでした。災害の記憶を風化させないためにもこうした企画は継続的にしていくことを希望する。

○テレビでは放送されない、「現場」の生の声が聴けたことが大変貴重ないい番組だと感じた。メディアで取り上げられるのが「石川県」が多いが、富山の現状を知り、隣県であるものの被害の大きさの違いに大変驚き他県で災害が起きたときや、3.11、1.15 など、過去に災害があった日を迎えるタイミングで災害について改めて考え直すことが多い。普段はあまり気につけない人へもきっかけづくりの役割を果たしている番組だと思う。ただ、「津波」については、栃木では実際に起こらない災害なので、そこからどう学ぶ、実際の生活にどう活かすか、が難しいように感じた。今回は「避難の仕方」…逃げたつもりが「危険度の高いところに逃げてしまった」という事例を通して、自宅にいるときの避難場所は再度家族で確認したほうがいい、と思った。

○防災減災の企画は重要だが、過度な報道により、逃げる必要のない人々も逃げることでなり、2次災害のリスクが高まる。特に3月になると防災減災やジェンダーに関する報道が増え、情報が過剰になる傾向がある。ハザードマップを見るよう呼びかけるだけではなく、必要に応じて逃げるべき場所や方法などを定期的に提示すべきだと感じた。石川や富山の報道内容は一般的であり、特別番組としての感じがなかった。特に医師会に関する話題は不要だった。アナウンサーのコメントは興味深いものがあったが、特別番組なのでより深く掘り下げられるべきだと感じた。ラジオは情報が流れる速さがあるため、

より注意を引く情報の提示が求められると思う。

○番組の時間が 30 分と長く感じられ、15 分ほどが適切だと感じた。女性アナウンサーの声が落ち着いており、各話題が明確に分かりやすかった。ただ最後の話題が締めくくりとして不適切で特にコンパクトシティや関係者についての定義がないため理解しづらいと思った。地域の特徴や課題に関する議論は重要であり、地元に着した情報提供が改めて必要であると思った。特に、水害や土砂崩れに関するハザードマップの情報はインターネットで入手可能であることが指摘され、地域の住民が自ら備えることが不可欠であると考えさせられた

○防災や減災に関する情報は的確に伝わっていると感じられたが、初めて聞く人にとっては理解が難しいかもしれないと感じた。番組作成時には、コマーシャルの内容と挿入されるタイミングについても考慮すべきであり、流れを考慮した編集が求められると思う。コミュニティがうまく機能している地域や自治体について特集をしてはどうか？との番組提案もあった。ただコミュニティが崩壊している地域もあり、特に高齢者や障害者、子供などが避難時に困難を抱えるところも。避難所のあり方や食事提供方法についての特集が望まれ、特に女性の被害など隠れた問題に焦点を当てることが重要であると思う。

○防災や減災に関する学びは、一度の番組などでは不十分であり、地域ごとに提案や具体的な行動計画が必要だと感じられた番組だった。また栃木県などは山津波のリスクや土砂崩れの注意喚起が必要であり、3.11 の経験からも学ぶべき点が多いと指摘。避難所の在り方や食事提供、高齢者や女性などの特定のニーズに対する対策が不足していることも懸念している。番組では逃げ場所の確保や水の補給、電力供給などのライフラインの重要性が強調され、普段からの準備が欠かせない、また地域の自治や情報提供の充実も必要であり、特に個人情報の管理やコミュニティの強化も必要ではないかと番組を聴いて感じた。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7, 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2024年4月7日）
- ② 当社のホームページに掲載（2024年4月8日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2024年4月8日～）

以上